

2019年1月25日
公益財団法人イオン環境財団
東京大学国際高等研究所サステイナビリティ学連携研究機構
フューチャー・アース

第3回「イオン未来の地球フォーラム」開催

いま次世代と語りたい未来のことー自然の恵みー

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）、東京大学国際高等研究所サステイナビリティ学連携研究機構（機構長 武内和彦）、並びに持続可能な地球社会の実現を目指す国際研究プラットフォームであるフューチャー・アース（事務局長 エイミー・リュアーズ）は、2月2日（土）、東京大学にて第3回「イオン未来の地球フォーラム」を開催します。

本フォーラムは、全5回の開催計画で地球環境の変化やそれに伴って生じる問題の解決方法を考え、実行策を議論するものです。3回目となる今回は、フューチャー・アースが設定した課題の中から「自然資本」を選び、テーマを「自然の恵み」として専門家による基調講演、パネルディスカッションを実施します。パネルディスカッションでは、高校生・大学生をはじめとする来場者も交えて情報や意見の交換を行うことで、世代や立場を越え、ともに議論を深めます。

かけがえのない美しい地球を次世代の子どもたちへ引き継ぐため、今後も三者は連携して環境教育をはじめとした様々な活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時	2019年2月2日（土）13:00～17:30
場 所	東京大学 安田講堂（東京都文京区本郷7-3-1）
主 催	公益財団法人イオン環境財団 東京大学国際高等研究所サステイナビリティ学連携研究機構（IR3S） フューチャー・アース
後 援	文部科学省、環境省、外務省、農林水産省、日本学術会議、地球環境戦略研究機関 総合地球環境学研究所、国立環境研究所、フューチャー・アース日本委員会
主な出席者	東京大学 総長 五神 真 IR3S 機構長 武内 和彦 イオン環境財団 理事長 岡田 卓也
募集人数	1,000名
テーマ	いま次世代と語りたい未来のことー自然の恵みー
基調講演	「人新世※における地球の stewardship-自然資本をサステイナブルに管理する-」 ※現代を新しい地質年代として表現したもの 地球環境ファシリティ 統括管理責任者 兼 議長 石井 菜穂子 氏 「自然豊かで安心安全な地域づくり：グリーンインフラ」 北海道大学大学院農学研究院基盤研究部門森林科学分野 教授 中村 太士 氏 「『地域循環共生圏』の創造 ー日本発の脱炭素・SDGs 構想ー」 環境省 総合環境政策統括官 中井 徳太郎 氏
パネル ディスカッション (敬称略)	モデレーター：渡辺 綱男 パネリスト：石井 菜穂子、中村 太士、中井 徳太郎、藤田 香、福永 庸明 (渡辺 綱男 自然環境研究センター/国連大学サステイナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (UNU-IAS OUIK) 所長) (藤田 香 日経BP社日経ESGシニアエディター/日経ESGフォーラムプロデューサー) (福永 庸明 イオンアグリ創造株式会社 代表取締役社長)

【ご参考】

【イオン未来の地球フォーラム（第1回・第2回）】

2017年2月25日に東京大学浅野キャンパス内武田ホールにて、「地球と人の健康」をテーマに「第1回イオン未来の地球フォーラム」を開催しました。また2018年1月20日には東京大学安田講堂にて、「持続可能な消費と生産」をテーマに第2回目を開催し、参加者の皆さまと共に議論を深めました。



第2回 イオン未来の地球フォーラム

【東京大学 国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構（IR3S）】

IR3Sは、サステナビリティ学の発展と世界的拠点となることを目指し、2005年に東京大学で初めての分野横断的組織として設立されました。世界に共通する課題と地域に特有の課題の両面の問題解決を目指した研究の成果は、持続型社会へ向けた政策ビジョンの提言などに活かされています。2007年には国際的な学術誌である“Sustainability Science”を刊行、2012年には国際サステナビリティ学会（ISSS）を設立しました。2013年に東京大学国際高等研究所に編入され、ネットワークのさらなる拡張や、提言の社会実装、研究教育の一層の推進を図っています。またIR3Sには、5カ国に所在するフューチャー・アースの国際本部事務局のひとつが置かれています。

※IR3Sホームページ <http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/>

【フューチャー・アース（Future Earth）】

2015年に設立されたフューチャー・アースは、持続可能な地球社会の実現を目指す国際協働研究のプラットフォームです。「人類が持続可能で公平な地球社会で繁栄する」というビジョンの実現に向け、急激に変動する地球環境の理解、地球規模の持続可能な発展、持続可能な地球社会への転換、という大きなテーマのもと、研究者コミュニティと社会の様々なステークホルダーとの協働により課題解決型の研究を推進しています。

※フューチャー・アース ホームページ <http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/futureearth/>

■公益財団法人イオン環境財団

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立。以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。特に、持続可能な社会の実現のため、国内外の主要大学・各国行政・学術研究機関と連携し「環境教育」を強化しています。

※公益財団法人イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>

アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。2018年度は、「熱帯雨林からの贈りもの」をテーマに、王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チュラロンコン大学（タイ）、ヤンゴン経済大学（ミャンマー）の9ヶ国合計72名の学生が参加し、8月2日ー5日の期間マレーシア・クアラルンプールで開催しました。



第7回ASEP開講式（マラヤ大学内）

日本ユネスコエコパークネットワークとの連携協定

2017年8月7日、日本ユネスコエコパークネットワーク（会長 前田穰 宮崎県東諸県郡綾町長）と当財団は、“生態系の保全”と“持続可能な利活用”の調和を目指し、日本国内のユネスコエコパーク※（生物圏保存地域）における3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）に関し、国内初となる連携協定を締結しました。「生態系の保護・保全のみならず自然と人間社会の共生に重点を置く」というユネスコエコパークの理念に当財団が賛同し、日本国内の管理運営機関である日本ユネスコエコパークネットワークとの連携のもと、ユネスコエコパークのさらなる発展に向けて取り組むものです。

※生物圏保存地域（Biosphere Reserves : BR）により親しみをもってもらうため、2010年1月、日本国内ではBRをユネスコエコパークと呼ぶことが日本ユネスコ国内委員会で正式に決定されました。

【イオンと東京大学の取り組み】

給付型奨学金制度「イオンスカラシップ」

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは2006年より、アジア各国の大学生および日本で学ぶアジアの私費留学生を対象とした給付型奨学金制度「イオン スカラシップ」を実施しています。経済的支援の他、日本で学ぶ奨学生を対象としたセミナーの開催やボランティア活動への参加機会の提供などを行い、学生の皆さまの成長を支援しています。日本をはじめ中国、タイ、ベトナム、インドネシア、カンボジア、ミャンマーの計7カ国37大学と提携し2018年12月までにのべ6,302名の学生に奨学金を付与しています。東京大学とは同制度の開始当初から給付しています。

「アジア ユースリーダーズ」

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、アジア各国の若者たちが一堂に会し、開催国の社会問題をテーマに、視察や専門家によるレクチャーの後、ディスカッションを行うプログラム「アジアユースリーダーズ」を実施しています。異なるバックグラウンドを持つ、インドネシア、タイ、中国、日本、ベトナム、マレーシア6カ国の学生たちが、英語を共通言語として議論を重ね、問題への解決策を模索し、グローバル感覚や互いの価値観を認め合う姿勢を養います。2010年にスタートした同プログラムは、2016年まで大学生も対象としており、東京大学の学生がのべ11名参加しました。（2017年からは高校生を対象とするプログラムに改訂）

「東京大学^{しよくもん} 奨門賞」受賞

イオン株式会社、および公益財団法人イオンワンパーセントクラブは2016年10月、「東京大学奨門賞」を受賞しました。同賞は、ボランティア活動及び援助等により、同大学の研究活動の発展に大きく貢献した個人・法人・団体に贈呈されるものです。東京大学大学院農学生命科学研究科と協力し、民間レベルでの植物病対策強化と農産物の生産性向上を実現するため、小売業で初めて同研究科の「植物医科学講座」に寄付を行ったことが評価されました。イオンはイオンワンパーセントクラブを通じて同講座に対し、2011年度から2013年度の3年間にわたり総額 9,000万円を寄付しました。



2016年10月東京大学奨門賞授賞式